

年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長 さいとよしひろ 齊戸美弘

クロマトグラフィー科学会会員の皆様、明けましておめでとうございます。昨年よりクロマトグラフィー科学会第 17 期の会長を仰せつかっております豊橋技術科学大学の齊戸でございます。

皆様ご存じのとおり、クロマトグラフィー科学会は 1989 年の学会発足以来、クロマトグラフィーおよびその関連技術に特化した国内最大の学会として、学術集会の開催、学会各賞の授与、機関誌の発行などの事業を積極的に継続しつつ、学会運営を支えていただいている会員の皆様とともに着実に歩んで参りました。

最近の取り組みの中で特筆すべき点のひとつが、浜瀬編集委員長の主導による機関誌(CHROMATOGRAPHY)の発行プロセスの大幅な改革です。投稿する著者自らが最終掲載形態の原稿を作成できる論文投稿テンプレートを公開しており、編集委員会メンバーの充実とも相まって一層迅速な審査が達成されており、投稿から掲載までの期間が大幅に短縮されてきています。本学会機関誌は、JST の学術論文公開プラットフォームである J-STAGE 上でのオープンアクセス誌であり、掲載が決定された論文は、DOI の付与後、速やかにオンライン公開されています。また、このような取り組みを通して、機関誌発行に係る経費の大幅な削減にも成功しています。更に、本学会機関誌に対して、2023 年より、これまで本学会の念願であったインパクト・ファクターが算出されることが決まっています。これにより、一層多くの方に積極的に論文投稿をしていただけるものと期待しているところです。これもひとえに、機関誌改革に中心的役割を果たしてこられた浜瀬編集委員長をはじめ、編集委員会の皆様、研究成果を投稿していただきました会員各位の努力の成果です。心より御礼申し上げます。

近年の学会運営については、多くの学会の財政状況が悪化しており、年会費あるいは学術集会参加登録費の大幅な値上げ、機関誌サービスの縮小など、その影響を実感している方も多くいらっしゃるものと存じますが、本学会では、2004 年の竹内豊英事務局長就任以降、大塚浩二事務局長（2008 年－2011 年）、小職（2012 年－2019 年）、北川文彦事務局長（2020 年－）と歴代の事務局長により、会員管理・会費管理システムの合理化、会誌・学会要旨集の見直し、会費収納率の改善、維持会員の拡充、経費削減など、大幅な改革と改善を実施してきています。今後も、会員の皆様への負担を増やすことなく、一層高いサービスを提供するべく、努力して参ります。会員の皆様におかれましては、このような取り組みへの一層のご理解を賜りたく存じます。

新規事業のひとつとして、昨年度より次世代技術セミナーを本会の主催事業化しています。また、従来から開催してきたシンポジウムおよび科学会議においても、若手招待講演などを拡充させることにより、学生会員ならびに若手正会員へのインセンティブを増やす努力も始めています。学生旅費援助制度の創設、学術集会におけるポスター賞の授与など、今後の論文投稿者となり得る若手・学生会員に対するプロモーションも積極的に展開してきました。

2023 年度は、第 30 回シンポジウムを岐阜市の岐阜大学（リム・リーワ実行委員長）において、第 34 回科学会議を福岡市の福岡大学（巴山忠実行委員長）において、それぞれ開催する予定です。今年も、浜瀬副会長兼編集委員長、北川文彦事務局長をはじめ、理事・評議員の皆様とともに、本会の益々の発展のために微力ながら精一杯努力して参ります。どうか会員の皆様のより一層のご支援ならびにご協力を賜りますようお願い申し上げます。